

卒後 50 年記念同期会、9 組レポート！

赤尾君が 50 年ぶりに参加して

宮原 豊 (9 組)

9 組の参加者は 14 名であったが、地元から田中光幸、塚田修、土屋啓郎、西澤良幸、増澤賢一、柳沢英明、若林健、甲田幹夫の 8 名、関東から赤尾晴夫、西村賢治、保屋野良治、牧野泉、丸山隆平、宮原豊の 6 名であった。

関東同期会は年に 1、2 度は開催され、9 組単独でも毎年必ず忘年会等を開催してきたが、今回は赤尾君が何十年ぶりかでみんなの前に元気な顔を見せてくれた。甲田君は東京と上田を往復しているのでたまに関東でも参加していたが、地元のみんなとの顔合わせは卒後 45 周年記念同期会以来 5 年ぶりであった。長年のシンガポール勤務から最近帰国した西澤君にも何十年ぶりかで会った。田中君は今も現役で頑張っているようだし、塚田君、土屋君をはじめほとんどが今も昔のまま風貌が変わっていない。

同期会の後半で酩酊し、早くも二次会モードに突入し、高校時代の空想と実践の間の個人差の大きな Vita Sexualis (オタ・セクスアリス) に話題が及んで盛り上がったところで、「YUMEYA」に移った。ここは昔から何故か 65 期には馴染みの深いサナエさんのお店である。

話題はあちこち跳んで、全部は記憶していないが、一番盛り上がったのは例の事件の真相である。むっとり無口な保屋野君、いちいち面白がって話の先を聞いたがる赤尾君や柳沢君は事件そのものさえ初耳だったろう。例の事件というのは、松尾祭最終日の夜の校門看板取り替え事件である。50 年経ち時効であるが、学校当局も「多分あいつらが犯人だ」と把握していながらも直接追及できずに、結局事件は迷宮入りした。

応援団長の西村君が自ら「団長の俺はスターで表向き格好のいい役回りをしてきたが、裏表すべてを仕切っていたのは総務部長たる増澤君が本当は一番偉かった」と「男気」に行き着いた。今回 9 組は女性参加者がなく、話題はどうも「何々組」のような侠気と熱気のクラスであったようだ。若林君の粋な和服姿は泥池に浮かぶ蓮の花のようであった。

眠っていたような丸山君も時々椅子の背もたれから顔を覗かせては聞き耳を立てていたが、2 時間ほどで同郷の赤尾君とともに帰路に着いた。かくいう私も 30 分ほどで失礼したので、その後のことは昔から記憶力抜群(良いことも悪いこともすべて)の牧野君に聞いてもらいたい。

確か次回は地元で塚田君が幹事になってくれると聞いた、よろしく。

以上

【写真 1: 9 組、同期会での集合写真】

前列左から牧野、丸山、若林、西村

後列左から土屋、柳沢、保屋野、塚田修、田中、甲田、宮原(筆者)、赤尾、西澤、増澤



【写真 2: 永遠の応援団長、西村君】



【写真 3: 9 組出席者の寄せ書き】

